

第6学年2組 体育科学習指導案

指導者 学級担任 徳永 亘亮

- 1 日時 令和5年6月26日(月) 5校時(13:40~14:25)
- 2 場所 屋外運動場
- 3 単元名 ティーボール(ボール運動領域 ベースボール型)
- 4 授業づくりに関する考え方

(1) 子どもの実態と教材の特性

子どもの実態	本学級は体育科の授業が好きで、活発に活動する児童が多い。また、6年生になり様々な場面で話し合い活動を行い、「自分たちで考えて実行する」ことのよさを感じている児童も多い。 ○ 授業の様子や新体力テストの結果から運動能力の面において差は大きい。また、「走る」「跳ぶ」などの単純な動きは良くできるが、教材特有の細かい技能が身に付いていない児童が多い。(知識及び技能) ○ リレーの学習において、チームの課題を見付け、改善するために練習するという活動を行ってきた。それぞれの意見から課題を見付け、改善するための練習方法を考え、実行できていたチームもあったが、なかなか話し合いが進まず、課題を解決しきれなかったチームも多かった。(思考力、判断力、表現力等) ○ どの活動にも友達と協力しながら楽しんで取り組んでいる。しかし、自己の記録向上のために努力したり、チームが強くなる方法を考えたりする児童は少ない。(学びに向かう力、人間性等)	教材の特性	ティーボールは、攻守を規則的に交代しながら、一定の回数内で得点を競い合う「ベースボール型」のゲームである。「打つ」「投げる」「捕る」などの基本的なボール操作技能に加え、ゲーム状況に応じた戦術的な行動判断が求められる教材である。また、攻撃と守備が分離しているため、相手からの動きの介入が少なく、身に付けた基本的な技能を発揮しやすい教材でもある。 今回の学習では、ルールを可能な限り易しくしたり、場の設定や道具を工夫したりすることで、チームで考えた戦術を実行しやすくなるため、仲間と話し合いを重ねながらチームの力を高めていくことができるだろう。また、単元が進むにつれて、ゲームの点差が広がったり、能力差が広がったりしてきた場合は、接戦になるようにルールや場、道具の設定を変更し、全員が楽しめる工夫を考慮することができるだろう。
--------	---	-------	--

(3) 単元計画

「教材とつながる」【視点①】	「仲間とつながる」【視点②】	「自分とつながる」【視点③】
① 全ての子どもが進んでボール運動に参加できるように、子どもの実態に合わせた活動内容やルールを設定する。道具を工夫し、打つ楽しさを味わわせることにこだわる。また、子どもの気付きや思いを引き出すために「する・みる・支える・知る」場面を設定する。	② 仲間とのつながりを意識付けるために、仲間と関わりながら解決することができるような学習課題を設定する。また、自己やチームに応じた道具の選択、攻撃や守備の作戦など必要感を持った対話に取り組ませる。	③ 学びを実感できるようにするために、毎時間の振り返りを学習カードに記入させる。また、次時の学習の課題を持たせ、主体的に取り組めるようにする。

ウ 単元における指導と評価の計画

時	1	2	3	4	5	6	7(本時)	8
学 習 の 流 れ	自分の課題を見付けよう。 ○ 5年生のティーボールの運動を想起し、試しのゲームを通して、自分の課題を見付ける。 【視点①】	しっかりとミートしよう。 ○ 正しい打ち方を知り、「いち」「にっ」「さん」のリズムに合わせて打つ練習をする。 【視点②】	できるだけ遠くへ飛ばそう。 ○ 力強いスイングを習得するために、「しっかりバットを引く」「腰を速く回転させる」ことを意識した練習する。 【視点②】	狙った方向に打とう。 ○ バットコントロールを身に付けるために、方向や距離を狙って打つ練習する。 【視点②】	より多く得点するにはどうすればよいか考えよう。 ○ チームで攻め方を考え、意図的な攻めがあるゲームをする。【視点②】	相手の得点を防ぐにはどうすればよいか考えよう。 ○ チームで守り方を考え、意図的な守りがあるゲームをする。【視点②】	チームで作戦を選び、実行しよう。 ○ 前時までの試合から、自己やチームの特徴に合った作戦を選び、ゲームをする。 【視点②】	「SBC」をしよう。 ○ 活動してきたことを生かして、リーグ戦を企画し、運営する。 【視点③】
主 な 評 価 態 度	ア(様態)	イ(様態・カード)	イ(様態)	イ(様態)	ウ(様態・カード)	ウ(様態・カード)	ウ(様態・カード)	イ、ウ(様態)

(2) 単元構想

ア 単元目標

- 簡易化されたゲームで、ボールを打つ攻撃や隊形をとった守備によって、攻防ができるようにする。(知識及び技能)
- 全員が楽しむためのルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりする活動を通して自分の思いや考えたことを仲間に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- 仲間と協力して互いのよさを認め合いながら、積極的に運動に取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

イ 本単元で身に付けさせたい力の系統表

学年 観点	低学年 〈ボールゲーム〉	中学年 〈キックベースボール〉	高学年 〈ティーボール〉
知識及び技能	○ ゲームの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、簡単なボール操作とボールを持たないときの動きによって、攻めと守りを交代しながら、ボールを手などで打ったり、蹴ったりする簡単な規則で行われる易しいゲームができる。	○ ティーボールの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、ボールを蹴ったり打ったりする攻めや捕ったり投げたりする守りなどの基本的なボール操作と、ボールの飛球方向に移動したり、全力で走塁したりするなどのボールを持たないときの動きによって、攻守を交代する易しいゲームをすることができる。	○ ティーボールの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、静止したボールやゆっくりとした速さで投げられたボールを打つ攻撃や、捕球したり送球したりする守備などのボール操作と、チームとして守備の隊形をとったり走塁をしたりするボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができる。
思考力 判断力 表現力等	○ 簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	○ 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	○ ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、考えたことを他者に伝えることができる。
学びに向かう力 人間性等	○ 進んで取り組み、規則を守り誰とも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。	○ 進んで取り組み、規則を守り誰とも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。	○ 積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をすることができる。また、勝敗を受け入れ、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。

ウ 本単元を通して育てたい子ども像(ゴールイメージ)及び教師の願い

「仲間とともに『できるようになる喜び』を感じる愛顔あふれる子ども」
 主体的・協働的な学びを通して、仲間のよい動きを認め、励まし合いながら「できるようになる喜び」を味わわせたい。また、ティーボールをきっかけにボール運動に進んで取り組めるようにしたい。

イ 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア ティーボールの行い方を理解している。 イ 基本的な打つ動作を身に付けることができる。 ウ チームの連携プレイによる簡易化されたゲームをすることができる。	ア ルールや道具を工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりしている。 イ 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	ア 運動に積極的に取り組もうとしている。 イ ルールを守り助け合って運動をしようとしている。 ウ 勝敗を受け入れようとしている。 エ 仲間の考えや取組を認めようとしている。

5 本時の指導（7/8）

(1) 目標

- 友達と協力し、自己やチームの特徴に合った作戦を選ぶことができる。（思考力・判断力・表現力等）
- チームの連携プレイによる簡易化されたゲームをすることができる。（知識及び技能）

(2) 準備物

- 教師 ティーボール、ティースタンド、バット、ベース、ホワイトボード、段ボール、ビブス
- 子ども 学習カード

(3) 展開

学習活動	○ 教師の働き掛けと子どもの意識の流れ	<input type="checkbox"/> 指導上の留意点 <input checked="" type="checkbox"/> 苦手な子ども・意欲的でない子どもへの支援・配慮 <input checked="" type="checkbox"/> 評価規準（方法）【観点】 <input type="checkbox"/> リズム良く言葉を発しながら練習させることで、正しい動きを身に付けやすくする。 <input type="checkbox"/> 作戦を選ぶ前に、チームの強みや特徴を考えさせることで、自己やチームの特徴に合った作戦を選ぶことができるようにする。 <input checked="" type="checkbox"/> 自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。（様態）【思・判・表】 <input type="checkbox"/> チーム練習がスムーズにできるようにホワイトボードを使って、動きの確認をするように助言する。 <input type="checkbox"/> 打つことが苦手な児童に、面が平らなバットやテニスラケットを使用させることで、打って得点する楽しさを味わわせられるようにする。 <input type="checkbox"/> アウトゾーンを自由な場所に設置できる「ちょっと待ったカード」を使用することで、試合中にも考え、伝え合う場面を作り出す。 <input checked="" type="checkbox"/> 運動を多様に楽しむことができるように、「する・みる・支える」の役割を分担し、子どもたち自身で試合を運営できるようにする。 <input checked="" type="checkbox"/> チームの連携プレイによる簡易化されたゲームをすることができる。（様態）【知・技】 <input type="checkbox"/> 自分の活動を振り返る場と伝え合う場を設けることで、自他を認め、次の活動へ意欲をつなげる。
1 準備運動をする。（5分）	打撃のスキルアップ運動をして体をほぐそう。 ・今日ほどのくらい得点できるかな。 ・自分たちで作戦を選んでみたいな。	
2 チームの作戦を確認し、練習方法を決める。（2分）	チームに合った作戦を考えて、試合をしよう。 チームの作戦を確認し、練習方法を考えよう。 ・「ブンブン作戦」にしたから、力強く打つ練習をしよう。 ・「みんなで1列作戦」にしたから、ボールをつなぐ練習をしよう。	
3 チームで練習する。（8分）	チームで練習してみよう。 ・狙った方向に打つ練習をしてみよう。 ・できるだけ強い打球を飛ばそう。 ・アウトゾーンまでボールをつなぐ練習をしよう。	
4 ゲームをする。（22分） （・競技（する） ・応援（みる） ・審判等（支える））	相手チームと対戦してみよう。 ・打って得点が入るとうれしいな。 ・チームメイトのいい動きを見付けよう。 ・審判の役割も大切だね。 ・応援をすると勇気をもらえるね。 ・相手のチームのすごいところはないかな。 ・しっかりとルールを守った試合にしたいな。	
5 活動を振り返り、次時の作戦を選ぶ。（8分）	今日の活動を振り返り、SBCの作戦を選ぼう。 ・作戦がうまくいってうれしいな、次は違う作戦を選んでみよう。 ・SBCもがんばりたいな。	

(4) 本時の研究の視点

- 運動能力差に関係なくどの子どもも運動に前向きに取り組み、必要感のある対話を通してチームの中で自己を発揮することができるか。【教材とつながる】【仲間とつながる】
- これまでに学習してきたことを自分なりに振り返り、それを生かして、主体的に活動しようとする姿が見られたか。【自分とつながる】

(5) 子どもの自己評価

子どもの自己評価として以下の質問をする。毎時間積み重ねていくことで、自己評価を蓄積し、個別指導に生かすためである。また、数値が変化した理由を教師自身が考えることによって、授業改善にも生かすことができ、子どもの思いや願いをくみ取った授業を目指すことができる。

1 楽しかったですか。
2 今までできなかったこと（運動や作戦）ができるようになりましたか。
3 自分のめあてに向かって何度も練習できましたか。
4 友達と協力して、仲よく学習できましたか。
5 友達とお互いに教えたり、助けたりしましたか。

(1 できなかった 2 どちらかというときできなかった 3 まあまあできた 4 できた)

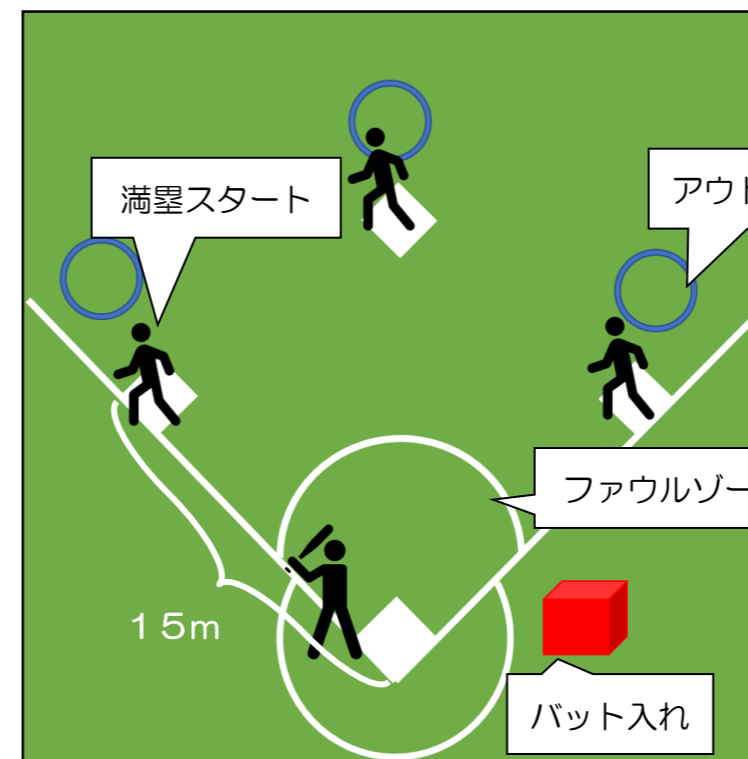
また、単元を通して学習カードに毎時間の振り返り等を書かせる。そこには授業で学んだことの他に、「①自分の成長、②友達とのかかわり、③自分なりの目標と解決策等」を書くようにしている。

これらのことにより、子どもがこれまでの自分を振り返りながら単元を進めていくことができると考える。

(6) 場の設定と基本的なルール

＜場の設定＞
★ ベースを4つ設置する。
★ アウトゾーンを設置する。
★ ファウルゾーンを設置する。
★ バットを入れる箱を置く。

＜基本的なルール＞
★ 3チーム（先攻・中攻・後攻）で行う。
★ 1試合1イニングで行う。
★ 打者一巡で攻守交替を行う。
★ 打者はどのバットを使ってもかまわない。
★ 守備がボールを持ってアウトゾーンに入ったら、それ以上進塁できない。
★ 直接フライをキャッチした場合は0点。
★ イニングの開始時は、満塁から始める。（以降、打者は残塁）
★ ランナーが本塁に還ると1点。
★ 守備はファウルゾーンに入らない。



- バットの種類
 - ①長めのバット
 - ②短めのバット
 - ③面が平らなバット
 - ④テニスラケット

- ちょっと待ったカード
守備時に1回ずつ、アウトゾーンを自由な場所に1つ設置できる。